

充血した眼が飛び出すなんて、めったにお目にかかる症状ではない。それが稀まれなことだけに、一度でも診みたことがある医者なら簡単に診断はしつへ。

67歳のK子さん。「右眼が、赤く充血して飛び出してきた」と訴える。右の眼球結膜（白目）の血管が拡張して、眼全体が赤く見える。確かに、「充血」である。ちなみに、白目がベタツと赤くなるのは、結膜下出血だ。こわい病気ではない。

で、K子さんの右の眼は、出血ではない。充血だ。さらに、心臓の拍動に同期してドクン、ドクンと飛び出している。ザツ、ザツと、心臓と同じリズムの耳鳴りもあるという。そつだ。前にも診たことがある。頸動脈海綿静脈洞癭じゆうどうみやくう（CCCF）である。

眼の奥には、顔や眼の静脈が戻ってくる海綿静脈洞という静脈血の集まるところがある。CCCFというのは、その海綿静脈洞の中を走っている頸動脈の一部が破れ、動脈血が、直接、海綿静脈洞に流れ込むために起きる。

動脈血は圧が高いから、顔や眼の静脈に逆流する。そのため、眼が飛び出したり、白目が充血したりする。眼の動きが悪くなつて、複視を起す。視力が低下し、失明することもある。心拍に同期した眼球突出や血管性耳鳴があるなら、CCCFに間違いはない。

そのCCCFには、原因の特定できないものもある。が、大半は外傷によるものだ。なぜか、外傷後1週間から1ヶ月経過してから発症するものが少なくない。K子さんも、1ヶ月以上前に、転んで右の前額部をぶつけた。意識はなくなかったが、皮下出血による右眼のパンダ状態が続いたという。

時に、眼の周りの顔面外傷が頭蓋底骨折を起こし、眼の奥の頸動脈壁を損傷してCCCFを起こすことがある。「弱目の業た目」ということが。痛さを忘れた頃でも、眼の変化にご注意を。

（石黒修三 いしへろクリニック・脳神経

外科医…6/6 北國新聞掲載）